

訪問診療で注意すべき薬剤と検査値の知識



全身管理歯科学講座高齢者歯科学分野

森本佳成

高齢者のなかでも特に重症の病気もなくお元気の方も多いが、これらの方々はおおむね外来に通院されている。訪問診療で診察する高齢者は、比較的重症の病気を有していたり、高齢のために全身の機能が低下しているために、外来通院できなくなった方々である。したがって、全身状態の評価も、外来に来られる高齢者を対象にした従来の考え方から、全身の機能が低下した高齢者に対して考慮をする必要がある。例えば、経口摂取が少なくなって脱水傾向の高齢者では、血液が濃縮されて検査値が一見正常に見えることもある。また、老衰のために心機能が低下して、高血圧症があるにもかかわらず一見正常の血圧に見えることもある。このように患者の状態はさまざまであり、教科書的に統一された方法を提示することは困難である。

本講演では、要介護高齢者を中心とした訪問診療時の全身評価の一環として、薬剤および検査値（血液検査のみならずバイタルサインも含めて）の見方、考え方に加え、歯科医師が投薬するときの注意点について説明する。

【略歴】

- 1986年3月 福岡県立九州歯科大学卒業
- 4月 奈良県立医科大学附属病院臨床研修医（口腔外科）
- 1988年3月 島根医科大学（現島根大学医学部）附属病院医員（麻酔科）
- 1994年5月 奈良県立医科大学助手（口腔外科学）
- 2002年2月 大阪大学歯学部附属病院講師（歯科麻酔学）
- 2014年3月 九州大学病院准教授（特殊歯科総合治療部全身管理歯科・科長）
- 2015年4月 神奈川歯科大学教授（全身管理歯科学講座高齢者歯科学分野）

【主な所属学会】

- 日本歯科麻酔学会 代議員、認定医、専門医
- 日本口腔外科学会 専門医、指導医
- 日本有病者歯科医療学会 理事、専門医、指導医